

小中一貫芙蓉校開校について



特色ある学校運営推進事業
佐賀市立芙蓉小中学校
佐賀市教育委員会

小中一貫教育の必要性

1 背景

< 社会的背景 >

学習意欲の低下、学習内容未定着のままの進級・進学、いじめ・不登校等の問題の増加

基本的な生活習慣・家庭学習の習慣の未定着、集団生活での規範意識の低下、将来の夢や希望を描けない子どもの増加

< 国の動向 >

中教審義務教育部会報告 (H17.5.23)

～ 学校種間の連携・接続を改善するための仕組みについて十分に検討する必要がある。

～ 兄弟姉妹の少なくなっている子どもたちが年齢や学年、学校種を超えて交流する機会を拡大することが必要

中・高校免許で小学校の担当教科指導が可能になる
学校設置基準・・・兼務辞令可能

< 芙蓉校・蓮池地区 >

小中学校が隣接している施設的な利点や小規模学校の特性を活かした小中連携の学校経営を行ってきた。

蓮池町は、過疎化が進んでいる地域。住民は、児童生徒数の増加とともに学校の活性化を望んでいる。

小中一貫校の創設

< 6・3制の課題 >

小学校で個々に応じた指導がなされ、積上げられてきた個の特性を中学校で十分伸ばしきれていない。中学校入学後に生徒の学習・生活の実態に即した適切な指導が行われなかったため、中学校の日常生活に不適應を生じさせてしまい、結果、不登校を引き起こす場合もある。(中1ギャップ)

児童は、中学校進学に対して、学習面のみでなく、部活や人間関係まで多様な不安をもっている。

子どもについて抱える悩みは小学校以上に多いものの、学級担任とのつながりが薄くなることもあり、十分な相談ができずにいる保護者もいる。

小中一貫教育の意義

- (1) 小中一貫教育により，義務教育 9 年間で計画的かつ継続的に教科指導や生徒指導を展開できる。

～小中学校の段差を少なくし、より円滑なものにするとともに，児童生徒の発達の状況に即した新たな教育課程を創造することができる。

- (2) 異なる学年の交流によって，豊かな人間性や社会性を育成することができる。

～小学生と中学生といった校種を超えた児童生徒の交流を継続的に行うことによって，児童生徒の心の発達に良い効果が現れる。

- (3) 教職員の意識を変革することができる。

～小中学校の教職員の意識の違いから生まれる教科指導や生徒指導等の課題を解決することができる。

(1) 芙蓉校学校教育目標 ……統一した学校目標のもと、9年間で育てる具体的な子ども像を設定する。

「自ら学ぶ力を身につけ、豊かな心をもって未来を拓いていく子どもの育成」

<9年間で育てたい子ども像>

- ・ 生活能力を身につけた子ども
- ・ 社会性を身につけた子ども
- ・ 学ぶ楽しさ・おもしろさを味わい、基礎学力を十分身につけた子ども
- ・ 郷土の歴史や文化に学び、異文化にふれ、生き方を追求する子ども

(2) 基本方針

<9年間の学び・ふれあいをつなぐ教育の創造>

- ・ 社会の変革や教育改革の動きを見極め、一人一人の子どもに21世紀を逞しく生き抜く「生きる力」を育むために、9年間の学びをつなぐ「小中一貫教育」に取り組み、「確かな学力」をつけ、豊かな学びを実現させる教育活動の創造に努める。
- ・ 9年間一貫した教育課程を編成し、身につけるべき知識や能力、態度を明確にし、その達成を図る。
- ・ 小中一体となった指導体制を組織化し、児童生徒の自己実現に向けての支援体制を確立する。

(3) 教育課程の特色

4・2・3制

現在の6・3制のよさ(卒業としての節目)を残しつつも、子どもの実態に、より適合した4・2・3制をとる。

前期(1~4年)は「学びの土台作り」、中期(5~6年)は「学び方の習得」、後期(7~9年)は「自己学習力育成」に重点をおいた指導を行う。

*各期の12月に育てたい子ども像を基にした学習、生活面の「進級認定評価(仮)」を行い、認定証を発行する。また、1~3月を補充の時間とし、達成不十分な児童生徒個々に応じた指導を行う。…図中の **評**

5・6年一部教科担任制及び多様な授業形態

•一部教科担任制

5・6年の音楽、図画工作科で取り入れる。後期7~9年を受け持つ教員(中学校教員)が、乗り入れ授業を行う。理科での授業も検討中。

•TT、少人数授業

国語科、算数・数学科、体育科、理科で単元に応じて取り入れていく。

•合同授業

音楽科、生活科、図画工作科、総合、体育科で複数学年を一度に教える授業を仕組む。

期	前期				中期		後期		
学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9
内 容	学 び の 土 台 作 り 評				学 び 方 の 習 得 評		自 己 学 習 力 育 成 評		
	学 級 担 任 制				学 級 担 任 制 一 部 教 科 担 任 制		教 科 担 任 制		
	T T 授 業 、 少 人 数 授 業 、 合 同 授 業								
	基 本 的 生 活 習 慣 、 基 本 的 学 習 習 慣 の 定 着						自 己 学 習 力 育 成		

前期1年から始まる英語活動

- ・前期1年生から中期6年生に英語活動を導入する。英語に触れる活動を通して、英語の音に慣れ親しみ、積極的に外国人とかかわろうとする態度を育てる。
- ・外国の文化や習慣に対する興味・関心を高め、後期7~9年で行う英語科へつなげる。
- ・指導者は、担任、ALT、英語教員を充てる。
- ・指導時間は1~4年20時間、5~6年35時間程度。*放課後25分程度の英語活動も検討していきたい。
- ・7~8年英語科では、選択教科を活用し、年間15~35時間の時間増を行う。

	国語	社会	算数 数学	理科	生活	英語	音楽	図工 美術	家庭 技術	体育 保健	道徳	特活	総合	選択教科	クラブ	生徒会	行事	計
1	287		129		102	(20)	68	68		90	34	38				5	47	868
2	295		170		105	(20)	70	70		90	35	39				5	49	928
3	250	70	165	70		(20)	60	60		90	42	43	105			5	49	1009
4	250	85	165	90		(20)	60	60		90	42	43	105		16	5	59	1070
5	195	90	165	95		(35)	50	50	60	90	35	36	110		16	16	76	1084
6	182	100	157	95		(35)	50	50	55	90	35	37	110		16	16	70	1063
7	144	108	111	108		110	51	45	73	94	35	57	72	25(15)		15	44	1092
8	110	109	114	109		111	42	35	75	96	35	62	72	70(20)		15	46	1101
9	106	86	109	81		108	39	35	36	92	35	63	71	140(35)		14	56	1071

*選択教科()は、英語科

勤労観・職業観を育てるキャリア教育

- ・ 1～2年の生活科と3～9年総合学習に体験活動を中心にすえた「キャリア学習」を取り入れる。
- ・ 「働くこと」への関心・意欲を高め、学習意欲の向上を図る。
- ・ 自立意識を育み、豊かな人間性を育成する。

<キャリア教育カリキュラム>(予)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	朝顔を育てよう(9)						みんな大好き(12)			もうすぐ2年生(12)		
2年	野菜を育てよう(8)				みんなで作ろうフェスティバル(21)			明日へジャンプ(9)				
3年					蓮池自慢探検隊			名人をさがそう(35)				
4年	ボランティアに取り組もう(23)						2分の1成人式をしよう(9)					
5年	米作りに挑戦1(12)						米作り2(16)		収穫祭をしよう(12)			
6年							自分の将来を思い描こう(12)					
7年	農業を通して地域をみつめよう(野菜作り、味噌作り、みかん作業)(32)											
8年	職業調べ(10)				職業体験(18)			立志式を開こう(10)				
9年	地域の先輩から学ぼう(4)								将来を見つめて(10)			

*キャリア教育…ニート、フリーター問題を契機に提唱されている。これまでの進路指導より広い概念を含み、「将来設計能力」「情報活用能力」「人間関係形成能力」「意志決定能力」を育てるために、小学校段階からの継続した取組が大切になる。佐賀市では、神野小、勸興小、循誘小が「キッズマーケット」、城北中、城南中が「職場体験」を核としたキャリア教育プログラムに取り組んでいる。

国語科、算数・数学科カリキュラム

< 国語科 >

「ふるさと題材」を考案し、作文学習等に取り入れる。教科の特性から、4・3・2年のくぎりを設け、学年間交流（異学年での発表会等）を行うなど、各段階のつながりを重視した指導を行う。指導体制は、中期、後期で主にTTを取り入れる。

< 算数・数学科 >

思考力の向上に視点を置き、重点単元を決める。4・2・3制の前期から少人数授業を取り入れていく。また、中期では、後期教員とのTT授業により後期学年へのつなぎを円滑にする。

生徒指導(教育相談)

- ・月に1回の生徒指導全体会議、学期に1回の生徒指導研修会を開催する。
- ・会議では、気になる子一人一人について、協議を行い児童・生徒理解を深める。
- ・気になる子の記録は、個別にファイリングし次学年へ確実に引継ぐことで指導の継続化を図る。

部活動

- ・中期5年生からの部活動入部を計画中。

特色ある学校行事

・早稲田大学との交流

7~9年生で早稲田大学教員の講義を1~3回受ける。また、9年修学旅行時には、早稲田大学内で講義を受け、修了証をもらう。

・農業体験

1年 芋ほり、5年 米作り、野菜作り、7~9年 野菜作り、ケナフ作り（手づくり卒業証書材料）

・合同体育大会・文化発表会・・・地域住民を招待

・その他・・・4年 2分の1成人式、8年 立志式

・今後の検討課題・・・早稲田小とのインターネット交流、福岡市インターナショナルスクールとの交流

期待される成果

本取組の成果を、今後展開していく「小中一貫校」「小中連携校」へ還元していくことができる。

「中1ギャップ」の解決策を含め、さらに重要になるであろう「生徒指導」の在り方を提案できる。

「確かな学力」向上のための「カリキュラム」「学習形態」等の在り方を提案できる。

小中教職員が一体となった取り組みで、それぞれのよさを生かしていくとともに、互いに高めあう教師集団を形成することができる。小中の教員免許をもっている教員は、9年間という長いスパンで子どもの育ちに担任として関わっていくことができる。

保護者・地域住民と一体となった学校設立を通して、学校が新しい町づくりの拠点となることができる。